

# 日本版大学生調査 JCIRP（2012 年）の報告（概要）

FD 委員会

## I. 日本版大学生調査 JCIRP とは

JCIRP は、同志社大学が 2004 年より UCLA で開発した「大学生調査」CIRP(Cooperative Institutional Research Program)の翻訳権を取得して日本版を開発し、継続して実施している調査である。学生の学習行動や学習時間、能力に関する自己評価、満足度を中心とした調査項目などから構成され、学習状況を把握できる。詳細は、同志社大学高等教育・学生研究センターのホームページを参照されたい<sup>1)</sup>。

本学は、2012 年調査に全学部（総合福祉学部・総合マネジメント学部・子ども教育学部・健康科学部）の学生が参加した。

## II. JCIRP の構成

JCIRP は以下の項目より構成されている<sup>2)</sup>。

- (1)基本属性：性別、年齢（今年度）、入学年度、在学状況（現在の学年）、居住形態、通学時間（片道）、高校（公立・私立・国立）、高校の共学／別学、高校での成績、留学生
- (2)入学に関する項目：本学の志望順位、受験決断時期、入学試験の種類、進学理由 30 項目、
- (3)入学後の学習状況に関する項目：専攻する専門分野、大学生活への適応 7 項目、大学の施設やサービス面での満足度 16 項目、入学後の学習態度 20 項目、大学生活での経験 12 項目、授業における学習経験 12 項目、他者と比較しての能力等の自己評価 24 項目、1 週間あたりの活動時間 23 項目、大学教員の学習への関与 11 項目、大学教育への満足度 20 項目、入学後の能力変化 20 項目、本学での成績
- (4)進路に関する項目：進学について、将来の職業やキャリア、キャリアにおける重要度 10 項目、価値観 25 項目、現在の就職活動状況、就職活動への熱心さ、政治への関心
- (5)家族に関する項目：家族における大学等卒業者及び本学卒業者の有無
- (6)経済状況に関する項目
- (7)学生生活全般に関する項目：学生生活の充実度、「もう一度本学に進学しますか」

## III. 本学の特徴 —全参加大学との比較—

全参加大学<sup>3)</sup>と本学の集計表について、 $\chi^2$ 検定を行った。その結果、以下のような結果が得られた<sup>4)</sup>。

なお、結果の詳細は「日本版大学生調査 JCIRP（2012 年）の本学と全参加大学の集計結果」<sup>5)</sup>を参照されたい。

## 1. 基本属性

本学の回答学生は、全参加大学の回答学生に比べて、性別では女性がより多く、年齢（今年度）ではより高く、入学年度では2010年度がより多く、在学状況（現在の学年）では3年生がより多く、居住形態ではアパートやマンションがより多く、高校（公立・私立・国立）では公立がより多く、高校の共学／別学では別学がより多く、高校での成績では中の下くらいという自己報告がより多く、本学の志望順位では第一志望がより多かった。

## 2. 進学理由と受験決定時期

本学は、全参加大学に比べて、「資格を取ることができる」「卒業生の就職がよい」「本学の校風に魅力があった」「本学で学ぶ内容に興味があった」「本学の教育の評価が高い」「本学の社会活動に対する評価が高い」「本学のスポーツ活動に対する評価が高い」「本学のウェブサイト閲覧した」「大学説明会・進学相談会に参加した」「オープンキャンパスに参加した」で「重要」と回答する者が顕著に多かった。また、「本学の規模が適当であった」「入試科目が自分にあっていた」で「重要」と回答する者が多く、「本学に進学した先輩から勧められた」「予備校や塾で勧められた」で「重要」と回答する者がやや多かった。逆に、「すぐに働きたくなかった」「学費が適当であった」「本学の合格可能性が高かった」で「重要でない」と回答する者が顕著に多かった。また、「本学に入学すれば奨学金が支給される」「他大学の合格可能性が低かった」で「重要でない」と回答する者がやや多かった。

本学は、全参加大学に比べて、高校3年生の4～8月に決定する者が多かった。

## 3. 大学生活への適応

本学は、全参加大学に比べて、「他の大学生との友情を深める」で「うまくいった」と回答する者が顕著に多かった。また、「大学教員と顔見知りになる」で「うまくいった」と回答する者が多かった。

## 4. 大学の施設やサービス面での満足度

本学は、全参加大学に比べて、「コンピュータの施設や設備」「コンピュータの訓練や援助」「図書館の設備」「実験室・実習室の設備や器具」「就職の斡旋サービス」「健康保健サービス」「ボランティア活動の機会」「レクリエーション施設」「キャリアカウンセリング」「心理相談やカウンセリングサービス」「大学全体の学生数」で「満足」と回答する者が顕著に多く、「学生寮などの大学内の居住施設」で「普通」と回答する者が顕著に多かった。また、「下宿やアパートの斡旋の紹介」「リーダーシップ発揮の機会」で「満足」と回答する者が多かった。

## 5. 入学後の学習態度

本学は、全参加大学に比べて、「授業内容について他の学生と論議した」「他の学生と一

緒に勉強した」「ボランティア活動をした」「Web上でブログを書いたり読んだりした」「研究や宿題のために図書館を利用した」「教職員に将来のキャリアの相談をした」「教員に親近感を感じた」「教員の研究プロジェクトに参加した」「教員と定期的に話をした」で「した」と回答する者が顕著に多かった。「大学教員と懇親会を持った」「インターネットを使って授業課題を提出した」で「した」と回答する者が多く、「授業に遅刻した」「インターネットを使って授業課題を受けた」「アルバイトや仕事で授業を欠席した」で「した」と回答する者がやや多かった。逆に、「学際的な授業を履修した」「学内のスポーツに参加した」で「しなかった」と回答する者がやや多かった。

## 6. 大学生活での経験

本学は、全参加大学に比べて、「ホームシックになった」「ゆううつで落ち込んだ」「やるべきことの多さに圧倒された」「礼拝や宗教的活動に参加した」「アルコール飲料を飲んだ」「ボランティア活動を行った」で「あった」と回答する者が顕著に多かった。また、「カウンセリングを求めた」で「あった」と回答する者が多かった。逆に、「留学生と交流した」で「なかった」と回答する者が顕著に多かった。

## 7. 授業における学習経験

本学は、全参加大学に比べて、「学生が自分の考えや研究を発表する」「授業中に学生同士が議論する」「学生の意見が取り入れられる」「テーマを学生が設定する」「学生自身が文献や資料を調べる」「実験、実習などを実施し、学生が体験的に学ぶ」「仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ」「授業内容が社会や生活にどのように関わっているか」で「あった」と回答する者が顕著に多かった。また、「出席されることが重視される」で「あった」と回答する者が多かった。逆に、「授業援助者による補助がある」で「なかった」と回答する者が顕著に多かった。

## 8. 他者と比較しての能力等の自己評価

本学は、全参加大学に比べて、「学力」で「平均」と回答する者が顕著に多く、「一般的な教養」で「平均」と回答する者が多かった。また、「協調性」「情緒面の安定性」「他者の理解」で「平均以上」と回答する者が顕著に多かった。「文章表現の能力」で「平均」と回答する者が多く、「競争心」「社交面での自信」で「平均以上」と回答する者がやや多かった。逆に、「数理的な能力」で「平均以下」と回答する者が顕著に多かった。「知的面での自信」で「平均以下」と回答する者が多く、「コンピュータの操作能力」で「平均以下」と回答する者がやや多かった。

## 9. 1週間あたりの活動時間

本学は、全参加大学に比べて、「同性の友だちと交際する」「コンパや懇親会」「テレビを

見る」「家事や育児」「就職活動やインターンシップ」「ボランティア活動」で長い活動時間を回答する者が顕著に多かった。また、「授業時間以外で勉強や宿題をする」「携帯電話を使用する」で長い活動時間を回答する者が多く、「異性の友だちと交際する」「オフィスアワーに教員と面談」「インターネットでの友人との交流」で長い活動時間を回答する者がやや多かった。逆に、「運動やスポーツ」「TV・PC ゲームで遊ぶ」でより短い活動時間を回答する者が顕著に多かった、「部活動や同好会」で短い活動時間を回答する者がやや多かった。

## 10. 大学教員の学習への関与

本学は、全参加大学に比べて、「教育課程や授業に対する助言や指導」「精神的なサポート」「学習能力を向上するための手助け」「成績評価以外の学習アドバイス」「知的にやりがいのある課題や励まし」「授業以外でも学習内容を話し合う機会」「専門的な目標の達成の手助け」「教室での学習を『実生活』に応用する機会」で「あった」と回答する者が顕著に多かった。逆に、「大学院進学への励まし」で「なかった」と回答する者が顕著に多く、「推薦状の執筆」で「なかった」と回答する者がやや多かった。

## 11. 大学教育への満足度

本学は、全参加大学に比べて、「専門分野の授業」「授業の全体的な質」「キャリア計画に対する授業内容の有効性」「1つの授業を履修する学生数」「教職員による学習支援体制」「履修や成績に対するアドバイス」「他の学生と話をする機会」「大学のなかでの学生同士の一体感」「大学における学生交流の機会」「多様な考え方を認め合う雰囲気」「大学での経験全般」で「満足」と回答する者が顕著に多かった。また、「社会科学の授業」「日常生活と授業の内容との関連」「個人別の学習指導や援助」で「満足」と回答する者が多く、「教員と話をする機会」で「満足」と回答する者がやや多かった。

## 12. 入学後の能力変化

本学は、全参加大学に比べて、「専門分野や学科の知識」で「大きく増えた」と回答する者が顕著に多く、「人間関係を構築する能力」「他の人と協力して物事を遂行する能力」「コミュニケーション能力」で「大きく増えた」「増えた」と回答する者が顕著に多く、「リーダーシップ能力」「地域社会が直面する問題の理解」「文章表現の能力」「プレゼンテーション能力」「卒業後に就職するための準備の程度」「時間を効果的に利用する能力」で「増えた」と回答する者が顕著に多かった。また、「分析や問題解決の能力」「国民が直面する問題の理解」で「増えた」と回答する者がやや多かった。逆に、「異文化の人々に関する知識」「異文化の人々と協力する能力」「数理的な能力」で「変化なし」と回答する者が顕著に多かった。また、「外国語の能力」で「変化なし」と回答する者が多く、「グローバルな問題の理解」で「増えた」と回答する者が少なかった。

### 1 3. キャリアにおける重要度と就職活動への熱心さ

本学は、全参加大学に比べて、「自己を表現する仕事」で「ある程度重要」と回答する者がやや多かった。「就職時の選択肢の多さ」で「とても重要」と回答する者が少なく、「高収入の可能性」「世間的な知名度や地位」「自由な時間」で「とても重要」と回答する者がやや少なかった。

就職活動への熱心さは、「まあまあ熱心である(あった)」と回答する者がやや多かった。

### 1 4. 価値観

本学は、全参加大学に比べて、「困っている人の役に立つ」「人生の意味を深く考える」「人権意識の向上に貢献する」で「とても重要」と回答する者が顕著に多く、「地域社会の活動に参加する」で「とても重要」「少し重要」と回答する者が顕著に多く、「自分の専門分野で仲間認められる」で「少し重要」と回答する者が顕著に多かった。また、「友人関係を大切にする」で「とても重要」と回答する者が多く、「自分の生きたい人生を送る」で「とても重要」と回答する者がやや多かった。逆に、「会社などで出世する」で「あまり重要でない」と回答する者が顕著に多く、「ビジネスで成功する」で「まったく重要でない」「あまり重要でない」と回答する者が顕著に多かった。また、「科学の理論的な発展に貢献する」で「まったく重要でない」と回答する者が多く、「政治の動向に関心を持つ」で「まったく重要でない」「あまり重要でない」と回答する者が多く、「自分の専攻分野で第一人者になる」で「あまり重要でない」と回答する者が多かった。「企業や団体などで管理職になる」「環境を守るための活動に参加」で「あまり重要でない」と回答する者がやや多かった。

### 1 5. 学生生活の充実度と「もう一度、本学に進学しますか」

本学は、全参加大学に比べて、学生生活の充実度は「充実している」と回答する者がやや多く、「もう一度、本学に進学しますか」は「おそらく進学する」と回答する者が顕著に多かった。

## IV. 調査を踏まえた本学の特色

### 1. 大学の評価と進学理由

進学理由を見ると、まず、「資格」「就職」「校風」「学ぶ内容」「教育の評価」「社会活動の評価」「スポーツ活動の評価」が重要視されている。それには、以下のようなことが認知されたと思われる。

#### ①資格

本学では、社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、保育士、幼稚園・小学校・中学

校・高校・特別支援学校の教諭、養護教諭、臨床心理士（本学大学院修了）、臨床発達心理士（本学大学院修了）、社会教育主事、博物館学芸員、図書館司書、看護師、保健師、作業療法士、理学療法士、医療情報技師、診療情報管理士をはじめとする、数多くの資格を取得することができる。また、資格取得のためのバックアップにも力を入れている。

なお、東洋経済の分野別「2012年資格に強い大学」ベスト10（合格者数）では、社会福祉士4位、精神保健福祉士7位にランクインしている。また、看護師、作業療法士、理学療法士の合格率はほぼ100%である。

そのことが、授業における学習経験での「仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ」の高さに表れているといえる。

## ②就職

本学は、キャリアセンターを中心にして、リエゾン型キャリア教育を展開し、高い就職率を達成している。

なお、東洋経済の「2012年大学就職率ランキング」の「文系ベスト100」で、本学子ども科学部は27位に、健康科学部は91位にランクインしている。また、「北海道・東北地域文系ベスト25」で、本学子ども科学部は5位に、健康科学部は12位に、総合福祉学部は15位に、総合マネジメント学部は19位にランクインしている。

## ③校風、学ぶ内容、教育の評価

本学の建学の精神は「行学一如」であり、教育の理念は「自利・利他円満」である。その精神と理念のもと、社会や地域での実践実学を重視し、社会や地域とのつながり及び1年次から4年次までのつながりによるリエゾン型の教育を展開し、学士力はもとより、人間力と社会力を養うことに力を入れている。また、初年次の「リエゾンゼミ」から問題発見・解決型学修（PBL）を行うなど、アクティブ・ラーニングを積極的に取り入れている。

なお、本学は、2013年度より、「地域共創教育」（地域のニーズに応え、地域の新たな価値を創造し、地域の課題の解決を図ることができる人材の育成）に取り組んでいる。

それらのことが、授業における学習経験での「学生が自分の考えや研究を発表する」「授業中に学生同士が議論する」「学生の意見が取り入れられる」「テーマを学生が設定する」「学生自身が文献や資料を調べる」「実験、実習などを実施し、学生が体験的に学ぶ」「授業内容が社会や生活にどのように関わっているか」の高さ、大学教育への満足度での「専門分野の授業」「授業の全体的な質」「大学での経験全般」の高さ、入学後の能力変化での「専門分野や学科の知識」「地域社会が直面する問題の理解」の高さに表れているといえる。

また、実践実学とアクティブ・ラーニングの学習により、1週間あたりの活動時間での「授業時間以外で勉強や宿題をする」が長くなったと思われる。ただし、約半数が1-5時間という時間は、アメリカの大学生（半数以上が11時間以上）<sup>6)</sup>と比べれば、少ないといえる。

#### ④社会活動の評価

本学は、社会貢献センターを中心として、大学が持つ資源（シーズ）を活用し、地域のニーズに沿って地域住民が抱える課題の解決及び地域の新たな価値の創造への貢献に取り組んでいる。具体的には、地域共創推進、生涯学習支援、心の問題の相談、特別支援教育研究、ボランティア支援（特に、震災復興は重点的取組）、次世代育成支援、予防福祉健康増進、社会貢献活動支援士や防災士の資格取得支援などを行っている。

なお、2013年度より、七ヶ宿町でリエゾン・カレッジ「千年塾」を中心とする地域活性化に取り組んでいる。

#### ⑤スポーツ活動の評価

本学は、体育会の活動にも力を注ぎ、ゴルフ部、硬式野球部、軟式野球部、女子バレーボール部、ソフトボール部などは、全国レベルで活躍している。また、本学は、多くのプロスポーツ選手とともに地域におけるスポーツ指導者を輩出してきている。

### 2. 大学を知る機会と進学理由

進学理由として「大学のウェブサイトの閲覧」「大学説明会・進学相談会」「オープンキャンパス」が重視され、高校3年生の4月～11月に約6割が受験を決定している。4～8月に決定した者の割合は全参加大学に比べると高かった。本学は、4月～11月に大学の情報提供及び双方向コミュニケーションを積極的に行うとともに、受験生のニーズに応じてウェブサイトや大学説明会・進学相談会、オープンキャンパスを常に充実させていく取組が望まれる。

なお、2013年度は、受験生向けサイト「With You+」の公開、本学ホームページのリニューアル、ブログやフェイスブック、ツイッターの導入などを行い、充実を図っている。

### 3. 施設・設備やサービス面

施設やサービス面の満足度を見ると、「コンピュータ」「図書館」「実験室・実習室」「就職の斡旋サービス」「健康保健サービス」「ボランティア活動の機会」「レクリエーション施設」「キャリアカウンセリング」「心理相談やカウンセリングサービス」「大学全体の学生数」で満足度が高かった。それには、以下のようなことが認知されたと思われる。

#### ①コンピュータ

本学では、全学生にPCを無償支給している。また、学内ランを整備し、学内どこでもインターネットに接続できるような環境になっている。PC21支援室により学生へのPC支援を行うとともに、ICTに関する授業及び初年次教育のリエゾンゼミをはじめとする演習においてICT活用の機会を積極的に設けている。

そのことが、入学後の学習態度での「ウェブ上でのブログを書いたり読んだりした」の多さや入学後の能力変化での「プレゼンテーション能力」の高さに表れているといえる。

## ② 図書館

本学の図書館は、約 35 万冊の図書と約 4800 種の学術雑誌、約 6000 点の視聴覚資料を所蔵している。図書館の利用するための各種ガイダンス、図書館を歩く（レポート・論文の書き方や文献検索ツール・PCの使い方など）、新入生応援、防災・震災、紙芝居、その年の干支に関する企画展示、日頃目にしない資料の特別展示などを積極的に行っている。

そのことが、入学後の学習態度での「研究や宿題のための図書館利用」の高さや入学後の能力変化での「文章表現の能力」の高さに表れているといえる。

## ③ 実験室・実習室

本学は、建学の精神「行学一如」を踏まえ、学内の実験室・実習室を充実させるとともに、実習の場として、付属施設の「特別支援教育研究室」「せんだんホスピタル」「臨床心理相談室」「予防福祉健康増進推進室」や関連施設の社会福祉施設・介護老人保健施設・クリニック・幼稚園などを備えている。また、教員志望の学生は1年次より学校など教育の現場でボランティアを行い、現場に触れる機会を作っている。本学は、このように実習の場を豊富に用意している。

そのことが、授業における学習経験での「実験、実習などの実施による学生の体験的学習」の高さに表れているといえる。

## ④ 就職の斡旋サービスとキャリアカウンセリング

本学のキャリアセンターでは、全学的情報配信システムの「UNIVERSAL PASSPORT（ユニバーサルパスポート）」を用いて、学生の就職活動を支援している。学生は、大学に届いた求人をどこからでもパソコン上で閲覧することができる。さらに、求人検索に加え、事前に登録した「お気に入り」条件に合う事業所の求人が個々の学生に自動で配信される。

また、キャリアセンターでは、キャリアカウンセラーによるキャリアカウンセリングをOB・OGも対象に含めて行っている。他にも、「マンツーマン指導」をモットーに、研鑽を積んだスタッフが個別に情報提供や就職相談を行っている。

さらに、キャリアリエゾンノート（キャリアに関するポートフォリオ）を活用して、講義・演習・実習科目、インターンシップ（大学仲介、自主開拓、長期、海外）、ボランティア活動、課外活動、キャリア支援講座などを記録し、ふりかえり、目標と具体的な計画を立てることで、キャリア形成をはかっている。なお、2014年度より、インターンシップ（地域共創型）を導入する。

これらのことが、入学後の学習態度での「教職員に将来のキャリアの相談をした」の高さと1週間あたりの活動時間での「就職活動やインターンシップ」の長さ、大学教育への



満足度での「キャリア計画に対する授業内容の有効性」の高さ、入学後の能力変化での「卒業後に就職するための準備の程度」の高さ、内定の高さ、職活活動への熱心さに表れているといえる。

#### ⑤ ボランティア活動の機会提供

ボランティア系のサークル・学生団体が数多くあり、ボランティア活動を行う機会が多い。また、ボランティア支援課では、学外からのボランティア活動の依頼の紹介や震災復興のボランティア活動への参加募集など、その機会を提供している。さらに、本学は、全国の大学で初めてボランティア活動を「福祉ボランティア活動」として単位化し、講座受講とゼミ担任による面談指導などにより、ボランティア活動をサービス・ラーニングとして充実した学びとなるよう推し進めている。

また、本学の学生は「困っている人の役に立つ」「地域社会の活動に参加する」「人権意識の向上に貢献する」「人生の意味を深く考える」という価値観を重視している。

本学のボランティア活動の機会提供と学生の価値観が合致して、入学後の学習態度での「ボランティア活動」がかなり高く、大学生活での経験での「ボランティア活動」がかなり多く、1週間あたりの活動時間での「ボランティア活動」がかなり長かったと考えられる。

#### ⑥ 健康保健サービス

本学は、保健室だけでなく、学内に「予防福祉クリニック」及び「せんだんホスピタル」を備えている。学生は1割負担（2割は大学が負担）で利用できる。また、健康診断を予防福祉クリニックで行い、その後の健康指導を保健室で行うなど、連携した健康保健の取組を行っている。なお、本学の学生の健康診断の受診率はきわめて高く、どの学年も9割以上である。

#### ⑦ 心理相談やカウンセリングサービス

ウェルネス支援室では、臨床心理士がカウンセラーとして常勤し、幅広い問題についてカウンセリングを行っている。また、学生相談室では、臨床心理士を中心とした教員が心理相談を行っている。

大学生活での経験では、「ホームシックになった」「ゆううつで落ち込んだ」「やるべきことの多さに圧倒された」がかなり多く、「カウンセリングを求めた」も多かった。さらに、他者と比較しての能力等の自己評価では、「情緒面の安定性」で平均以上が多かった。これらのことからすると、入学後、一時的にはホームシックやゆううつになっても、本学のカウンセリングサービスを利用することにより回復していることがうかがえる。

#### ⑧ レクリエーション施設

本学は、感性教育を重視し、本物の芸術に触れる機会を提供している。例えば、音楽堂「けやきホール」では、国内外の著名な音楽家及び一般の演奏者のコンサートなどを開催している。芹沢銈介美術工芸館では、人間国宝であった芹沢の型絵染めの作品と芹沢が収集した世界中の工芸品を展示し、ワークショップなども行っている。鉄道交流ステーションでは、東北の鉄道に関する資料を収集し展示している。また、2013年10月に開館予定の鉄道模型館では、縦7.2m×横3.6mの台座にメルクリン社製車両用3本と日本製車両用2本からなるレイアウトが展示される。茶室「道庵」では、茶をたしなむことができる。

### 3. 学生同士の活発な交流

大学生活の適応では「他の学生と友情を深める」が高く、入学後の学習態度では「授業内容に関して他の学生と議論した」「他の学生と一緒に勉強した」が高く、授業における学習経験では「授業中に学生同士が議論した」が多く、1週間あたりの活動時間での「同性の友だちと交際する」「コンパや懇親会」が多かった。

このことは、授業においても課外においても学生同士の交流が活発なことが伺える。

本学は約100の学生サークル団体があり、全学生に占めるサークル活動学生の割合は約7割と、全国的にみても極めて高い水準にある。このことも、活発な学生の交流の背景にあると思われる。

また、初年次のリエゾンゼミ（20人前後の少人数クラス）をはじめ、ゼミ・演習では、アイスブレイクを取り入れた人間関係づくりや少人数グループによる問題発見・解決型学習を積極的に行っている。このことも、学生同士の交流を促していると思われる。

そのことが、大学教育への満足度で「他の学生と話をする機会」「大学の中での学生同士の一体感」「大学における学生交流の機会」「多様な考え方を認め合う雰囲気」が高いという結果に表れているといえる。

また、入学後の能力変化で「人間関係を構築する能力」「他の人と協力して物事を遂行する能力」「コミュニケーション能力」が大きく伸びているが、その背景には学生同士の活発な交流があると思われる。

### 4. 教職員の学習への積極的関与、学生と教職員との交流

大学教員の学習への関与では「教育課程や授業に対する助言や指導」「精神的なサポート」「学習能力を向上させるための手助け」「成績評価以外の学習アドバイス」「知的にやりあぎのある課題や励まし」「授業以外でも学習内容を話し合う機会」「専門的な目標の達成の手助け」「教室での学習を『実生活』に応用する機会」が多かった。

このことから、本学の教員は学習へかなりの関与をしているといえる。

加えて、本学では、職員も、初年次のリエゾンゼミの副担任として学生に関与している。また、窓口では、職員が親身になって履修の相談や学生生活上の悩みの相談にも応じている。

それらのことが、入学後の学習経験での「教員に親近感を感じた」「教員の研究プロジェクトに参加した」「教員と定期的に話をした」の多さ、大学教育への満足度での「教職員による学習支援体制」「履修や成績に対するアドバイス」の高さに表れているといえる。

## 5. 全般的評価

大学生活の充実度では「充実している」が全参加大学に比べてやや多かった。また、「もう一度、本学に進学しますか」で「おそらく進学する」が他大学に比べて多かった。本学に対する全般的な評価が高いといえる。

なお、本学は、東洋経済の「2012年大学総合ランキング」で、77位にランクインしている（同じ順位に横浜国立大学、会津大学、神戸薬科大学がある）。

## V. 本学の今後の課題

### 1. 異文化理解

大学生活の経験で「留学生と交流した」がかなり少なかった。また、入学後の能力変化で「異文化の人々に対する知識」「異文化の人々と協力する能力」で変化がない者が多かった。

本学は、世界16の大学と国際学術連携協定を結び、国際交流センターを中心として、学生の交換留学、各種短期言語文化研修プログラム、海外インターンシップを積極的に行っている。にもかかわらず、それが認知されていない現状、あるいは本学学生が得た異文化の知識理解・異文化交流の経験や留学生の視点・経験が十分に発信されていない現状があると思われる。また、海外インターンシップはブログにより発信されているが、一般の学生にはあまり知られていないか、読まれていないと思われる。今後は、積極的に国際交流の発信が望まれる。

### 2. 数理的能力の学習

他者と比較しての能力等の自己評価では「数理的な能力」で平均以下という者が多く、入学後の能力変化では「数理的な能力」で変化がない者が多かった。理工系の大学ではないので、その学習の機会も少ないと思われるが、数量的なスキルは学士力の一つにあげられてもいる。

今後は、授業の中で表やグラフを活用して考える機会や表現する機会を増やし、数量的なスキルを高めることが望まれる。

### 3. 日常的な運動・スポーツの奨励と機会提供

1週間あたりの活動時間では「運動やスポーツ」でかなり少なかった。また、身体的活動量低下の原因の一つとしてテレビ・テレビゲームなどで過ごす時間の増加が指摘されている<sup>7)</sup>。その点では、本学の学生では「テレビを見る」がかなり多かった<sup>8)</sup>。

今後は、本学として、階段などの歩行や運動・スポーツを習慣的に行うことを奨励することが望まれる。また、そのような運動・スポーツの機会を提供することが望まれる。

#### 注

- 1) 同志社大学高等教育・学生研究センターのホームページ(2013年8月27日アクセス)  
<http://rc-jcirp.doshisha.ac.jp/>
- 2) 項目の分け方は本学FD委員会によるもの。
- 3) 全参加大学には、本学のデータも含まれている。
- 4) 「回答する者が顕著に多かった／少なかった」は有意水準 0.1%で有意であることを、「回答する者が多かった／少なかった」は有意水準 1%で有意であることを、「回答する者がやや多かった／少なかった」は有意水準 5%で有意であることを示す。
- 5) 学内のみ閲覧可。
- 6) 文部科学省 中央教育審議会 「学士課程教育の構築に向けて」(答申) 2008年12月
- 7) 厚生労働省ホームページ「身体活動・運動」(2013年8月27日アクセス)  
[www1.mhlw.go.jp/topics/kenko21\\_11/b2.html](http://www1.mhlw.go.jp/topics/kenko21_11/b2.html)
- 8) 「テレビゲームで遊ぶ」はかなり少なかった。